

平成24年度 第4回「学校運営協議会」会議録

日時 平成25年3月8日(金) 午後3時から4時30分まで
場所 長狭高等学校 文化ホール
参加者 23名 他本校職員
司会 (全体) T教頭 (報告及び協議) 副委員長

- 1 開会の言葉 G委員
- 2 委員長挨拶 副委員長
- 3 校長挨拶 校長
- 4 千葉県教育委員会挨拶 県教委

5 報告及び協議

ア 地域連携の取組について(報告) 事務局 資料1により説明。

イ 平成26年度「医療・福祉コース」設置に向けた準備状況について(報告)
事務局 資料2・3により説明。

I 委員 質問ではないが、高校が医療・福祉に興味を持っていて、活動が行われていることが分かった。各学校があくまでも基礎学力に重点を置いている。また、体験することによって自分の適性を試す機会でもある。

E 委員 文理開成高校や勝浦若潮高校で、介護の資格を取れるという計画もあったが、講師の先生の確保が困難ということもあり、駄目になった。長狭高校でもそのようなことがないように、生徒にとっては、2年次・3年次と継続して同じ先生が担当してもらえるといい。I委員に質問ですが、高校生でも単位を取得できるということだが、いかがですか。

I 委員 文部科学省でどういうシステムにしているかだが、高校側が大学の単位を取れるということを許可していると、大学としても単位修得を認定できる。また、アメリカではとても盛んで、高校から大学に行って単位を取るようなシステムがある。

J 委員 大学が認める場合は、大学の基準に沿った形で、科目履修生として認めれば、大学の単位を取得できる。先ほどのケースだと高校側が単位として認めるというものだと思います。質問ですが、医療・福祉コースの振分け方や人数はどうなっているのか。

Z 教頭 コースということだが、クラス単位ではなく、生徒の希望に合わせてコースを選択してもらおう。イメージとしては、福祉コース20名、医療コース20名、合わせて40名程度が適正な人数ではないか。福祉コースには文系から20名、医療コースには理系から20名を考えている。

- J 委員 教員のリソースや、視察などさまざまな取り組みをしていることを考えると、いかに効率的にクラスを運営していくかを検討したほうがいいのではないかな。
- 県教委 単位の認定について、高校が認める単位として、千葉大と木更津高校では 15 回の講義に参加することで、単位として認めている。どこの大学でもやっているわけではないが、大学側が認めるケースもある。
- C 委員 平成 26 年度から始まる「医療・福祉コース」について、中学生やその保護者が興味を持っている。介護については、女性のためのものというイメージがあるのだが、それでよいか。
- Z 教頭 福祉コースは、女子の希望者が多くなるのではないかな。また、医療コースは、範囲が多岐にわたるので、男子と女子両方を考えている。
- C 委員 キャリア教育という観点から考えると、高校での福祉コースというと、介護福祉士を養成するための、大学の下請けというイメージがあるが、地元に残る……。亀田病院には、多くの男性職員がいる。長狭高校に来ると、介護や看護だけでなく、検査技師などの体験ができるといいのではないかな。
- 事務局 医療・福祉コースの設置にあたって、松戸向陽高校に視察にいったいるが、男女比でいうと、4 対 1 で女子が多くなっている。長狭高校の場合を考えると、1 年次にはコースで分けられない。1 年次には、医療や介護に関して幅広く学習する。そうすることで、将来的なものを見据えて、ミスマッチを防げるのではないかな。
- I 委員 平成 26 年度のカリキュラムは初めてだが、カリキュラム委員会には、看護の専門家が入っていたのか。
- 事務局 カリキュラムは、チームを組んで、準備委員会を設置し、職員会議を経て決定した。
- I 委員 医療・介護、性別や職種に限定せず、幅広く考えてもらいたい。臨地実習は、どこでどのようなものを考えているのか。これから計画を立てるのか。
- 事務局 毎週という風には考えておらず、事前の学習や、事後のまとめなども含めて考えている。
- I 委員 コミュニケーションについて、対象者と対面するときに必要なのでシュミレーションしておく必要がある。医療の分野で活躍する……。資格にはつながっていない。
- J 委員 コースをどのように充実させるかが重要である。C 委員からもあったが、将来の選択肢を広げるようなコースを、是非作ってもらいたい。総合学習の一環としてでも構わないが、コミュニティ・スクールの特色として、地域が持っている教育力を活用してもらい

たい。城西国際大も亀田医療大も大いに貢献できる。

I 委員 亀田医療大は特色の一つに、リベラルエデュケーションとして、教養に力を入れている。
1 学年では視野を広げ、グローバル志向として、地域に貢献する実践力を身に着け、人間として成長していってほしい。

校長 男子なら、リハビリや放射線などが体験できるといい。メインは、看護や介護を考えているが、保育もカテゴリとしては福祉に入るし、それらも含めて、医療・福祉を幅広く考えていく動機づけができる。I 委員や J 委員からも話があったが、地域の大学にも大いに協力してもらい、広い視野で考えてゆきたい。医療ツーリズムという言葉を目にするが、旅館に介護福祉士の資格をもった従業員がいるということもある。また、グローバルという言葉もだが、基本は医療と介護というところに置きながらも、幅広く考えてゆきたい。

N 委員 平成 25 年度も医療や福祉を目指している生徒がいるが、試行的に試すことはできないのか。

事務局 本年度も亀田医療大に視察に行ったが、医療の現場を見学に行くなどにはできるのではないかと。

校長 カリキュラム上では難しいが、亀田医療大や専門学校先輩方がどのような学校生活を送っているのかを見に行ってもいいのではないかと。個人的には、幕張総合高校の看護学科を見せたいと考えている。

ウ 学校評価をもとにした意見交換（協議） Z 教頭(全)・T 教頭(定) 資料 4 により説明。

M 委員 コミュニティ・スクールの活動によって、地域の中でも話題になることが多くなった。色々な取り組みが、地域の方々に浸透してきているというイメージを持っている。学校評価を見ても、徐々に改善してきているということが分かる。私は小学校の教員なので、子供たちに長狭高校のことについて触れる機会がなかなかないが、中学校に子供たちを送るなかで、中学校の進路指導の中で、この位置づけが出てくるといいと感じながら教育を行っている。

N 委員 毎年いい方向に進んでいるのはいいことだが、質問の項目によっては、保護者の立場からすると、中身が分からない部分もあるので、そういう答え方をしている部分もあるのではないかと。例えば、「本校は…」という質問を「本校の生徒は…」に変えてみたり、記述式にすることで、様々な改善点を見つけることにつながるのではないかと。生徒の授業評価も素晴らしいが、評価項目が 3 項目だけではなく、もっと具体的な質問をすることで、見えてくる部分もあるのではないかと。記述式の評価があってもいいのではないかと。

E 委員 長狭高校の組織が機能していないのではないかと感じた。生徒や先生方が頑張っていることは良く分かるが、継続性がないのではないかと。職員の学校評価の中で(5)(6)の結果を見て、とてもショックを受けた。校長先生から、生徒の意見を先生方にどのように伝えて、各分掌でどのように話し合いが行われて、次に反省が活かされているのかが見えてこない。そのために、組織が機能していないと感じる。運営委員会や検討委員会があるという話もだが、それらも継続性がないのではないかと感じてしまう。先生方が忙しいものわかるが、各分掌で反省を踏まえて、話し合った結果をまとめなくても構わないので、先生方の意見をそのままでもいいので見せてもらいたい。そうすると、どういう取り組みがなされているかが見えてくる。生徒の指導に関しても、担任や学年主任だけでなく、各担当の先生方が責任を持って関わってもらいたい。また、(12)の項目に関しては、中にいる先生の10%が否定的な回答をしている。それを見ると横のつながりがうまくいっていないのではと感じてしまい、とてももったいない。校長先生には、組織作りをしっかりとしてもらいたい。

校長 ご指摘は良く分かるので、その部分をしっかりとやっていかなければならない。民間企業や行政というのは、学校と比較すると、ひとつ特徴があつていろいろなシステムがしっかりしている。比べて学校は、先生方が学級や授業を任せ、自由に考え自由に行動している。その中で、こういったものを浸透させていくことには、難しさがある。それらを越えて、コンセンサスの向上をこれから考えていかなければならない。職員の評価と保護者の評価を比較すると、職員が疑問に感じながら行っているものに対して、保護者にはそれなりの満足度がある。こういったことを踏まえながら、何が問題なのかを検討していく必要がある。職員評価(5)についても、生徒指導においてイエローカードを導入している学校は、県下でもそうはないと思う。本校はイエローカードという指導を行っている。4年前から指導を行っているが、本校の生活面の立て直しを図るために始めたことだと思う。しかし、その時から職員の中ではやり方に疑問を感じている職員もいる中でスタートしている。生徒指導については、全体としてはコンセンサスを得ていると思うが、細かいところではコンセンサスを得ていない部分がある。年2回の面談を職員と行って、それぞれの考えを聞くが、基本的な考え方はずれていない。

E 委員 生徒指導うんぬんではなく、全体としてシステムが機能していないと感じている。職員会議等でいろんな意見が出たとしても、決定したことに対して、みんなで頑張ろうよというのが組織だと考える。そうすると、こういう結果は出てこないのではないかと。

校長 これらに関しては、今後検証していきたい。

A 委員 この2つを職員間で話し合う材料として使って頂ければ十分だと感じている。

エ 平成25年度の運営について

Z 教頭 資料5により説明。

I 委員 中教審では学力の低下が言われているが、コミュニティ・スクールで活動として、考えグローバルな考え方を強化するような活動やイベントを見せたいと考えている。

L 委員 第2回の学校運営協議会の際に、授業公開として生徒の発表などを見た後に、協議会をもてるといいのではないかと。

N 委員 コミュニティ・スクールの推進の上で、鴨川市として、長狭学園や文理開成高校もコミュニティ・スクールを目指すという動きがある。これらの学校と交流を図りながら、地域とともに歩む学校づくりができるといい。

G 委員 学校運営協議会は長狭高校をよくすることが目的であるので、この会をオープンにして、一般の方にも参加していただけるといいのではないかと。

E 委員 回数を減らして、生徒や職員と話し合える場があるといいのではないかと。

オ 平成24年度 進路先一覧について

事務局 資料6により説明。

カ コミュニティ通信 第4号について

事務局 資料7により説明。

キ 本校新聞記事について

Z 教頭 資料8により説明。

※「専門性を高めるための看護基礎教育」について（紹介）

I 委員 資料により説明

【 総 括 】 県教委

6 閉会の言葉 G 委員